

購読者に電子メールで送信したものをそのまま掲載しています。等幅フォントでお読みください。

< C U E > 利用教育委員会通信 第 62 号 (17 巻 2 号) 2006. 8. 16 発行

■■■■ ■ ■■■■ 利 用 教 育 委 員 会 通 信
■ ■ ■ ■ ■ 日 本 図 書 館 協 会 図 書 館 利 用 教 育 委 員 会
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

- ・ 「< C U E > 利用教育委員会通信」は、日本図書館協会図書館利用教育委員会の最新のニュースをお伝えするメールマガジンです。
- ・ < C U E > とは、Committee of User Education の頭文字です。英語の「cue」はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
- ・ 利用教育関連の情報をお寄せください。
- ・ メールマガジンに関するご意見、ご要望はこちらへ。cue@jla.or.jp

□ 目次

- (1) 第 8 回図書館利用教育実践セミナーのお知らせ
- (2) 第 7 回図書館利用教育実践セミナーの報告
- (3) 新刊紹介
- (4) 図書館関係講座のお知らせ
- (5) 編集後記
- (6) 利用教育委員会委員

-
- (1) 金曜夜は、指導サービス専門家に变身！！
第 8 回図書館利用教育実践セミナーのお知らせ

●2006 年 10 月 13 日 (金) 19:00~21:00

インターネット活用講座から公共図書館の利用教育を考える

●講師：斎藤誠一氏 (千葉経済大学短期大学部)

現在、公共図書館でもインターネット上の情報が有効な情報源として活用され、多くの図書館でインターネット用開放端末が設置されている。

しかし、その利用をみるとインターネットに対する過信や情報に対する安易な利用も目に付く。この講座では、公共図書館で行う「インターネット上の情報活用講座」を取り上げ、有効サイトの紹介方法や情報に対する評価方法、また検索エンジンの賢い使い方などを通して、公共図書館の利用教育の手法を考えてみたい。

- 会場：日本図書館協会 2階研修室
- 対象者：図書館職員，教職員，日図協会員，利用者団体ほか
- 定員：120名（先着順受付，当日受付もあり）
- 主催：日本図書館協会
- 参加費：会員 500円/非会員 1,000円
- 申込：下記の申込書にご記入のうえ，日図協事務局宛に電子メールでお申し込みください。宛先：cue@jla.or.jp
- 締切：10月6日（金）
- 詳細：利用教育委員会ホームページ：<http://www.jla.or.jp/cue/>

●申込書

《図書館利用教育実践セミナー》参加申込書：

第8回 [2006年10月13日（金）]

- 申込日：
- 氏名（氏名ヨミ）：
- JLA 会員／非会員（会員の場合は会員番号：_____）
- 所属：
- 住所：
- 電話番号：
- 電子メール：

※記入いただいた情報は、今回の研修の企画・運営の参考にするほか、今後、研修等の情報をお送りする場合などを除き、利用、公表することはありません。

=====

(2) 第7回図書館利用教育実践セミナーの報告

新入生オリエンテーションのテーマに多数の参加者
—3種類の実演と自己点検・評価の事例が好評—

当委員会は、6月23日（金）、日本図書館協会研修室において、第7回図書館利用教育実践セミナーを開催しました。

テーマは「図書館利用教育の自己点検・評価の方法：大学図書館の新生生オリエンテーションを事例に」と題し、石川敬史氏（工学院大学図書館）が講演を行いました。

セミナーでは、毎年同じ内容や方法で実施しがちな新生生オリエンテーションの説明内容を中心に、評価・点検する項目を紹介し、数量的調査では表面化されない図書館員個々のオリジナリティーに富んだ実践に向けて、新生生オリエンテーションを設計する観点を説明しました。具体的には、(1)新生生オリエンテーションの現状、(2)説明内容におけるチェック項目、(3)新生生オリエンテーションの実演（3種類）、(4)創造のヒントとなるシナリオの種類、(5)他館における自己点検・評価の事例と課題、(6)現代大学生の傾向と大学生活システムとのかかわりを説明しました。

このセミナーには、大学図書館員を中心に62名が参加しました。アンケートの回答では、「大変よかった」が59%、「よかった」が28.5%とプラスの評価が全体の87.5%に上りました。

とりわけ、具体的に3種類の新生生オリエンテーションを実際に実演したことや、複数館の自己点検・評価の事例を具体的に説明した点が好評であり、受講者は、自館で実施している新生生オリエンテーションをさらに創造するきっかけをつかむことができたようである。（K.W）

(3) 新刊紹介

誰にでも効果のある、情報活用の妙薬としての一服

『文献調査法—調査・レポート・論文作成必携—（情報リテラシー読本）第二版』毛利和弘著、日本図書館協会、2006.7、214p. 1,800円

戸田光昭（駿河台大学名誉教授）

本書は、2年前の2004年に発行された初版の改訂版である。著者が「はじめに」で書いているように、「情報の陳腐化」に対処するために、隔年刊行をしている。特に、今回の版では、できるだけ最新の情報を入れ、レファレンスツールもかなり強化し、さらに最近特に重要になって

きたインターネットで探すデジタル情報源ツールを強化している。文献調査に役立つ内容になっているが、情報内容の変化が激しい分野であるから、新情報に対しては各自が絶えず注視し、取り込む姿勢が重要であることを警告している。

『情報リテラシー読本』という副書名のついた本書は、学生の自学自習用、図書館の参考業務（レファレンス担当）の文献調査の手引き、図書館利用指導の基本テキスト、ビジネスにおける調査業務の参考図書（ツール）などで利用されることを意図して編纂されている。専門家が使っても役立ち、大学の新生がひとりだけで使うことができ、図書館業務にも使えるという多目的活用が可能なマニュアルでもあり、しかもレファレンスブックである。

活用事例を具体的に紹介したい。「大きな書店」の代表である「八重洲ブックセンター」のことが知りたいと思って、巻末索引を引いてみる。「や」の所に、見出し語として採用されており、17ページと18ページに掲載されていることが分かる。17ページには、コラム「アルファertime」の欄で、「一度は行きたい八重洲ブックセンター」として、この大型書店の創業の由来から概要までが、簡潔にまとめられている。18ページの記述は、「インターネットで書店にアクセス」というコラムであり、インターネットから直接注文が可能な書店一覧の中にリストアップされている。また、関西系の大型書店「ジュンク堂」についても知りたい時は、索引で24ページに掲載されていることを知ることができる。東京池袋にある10階建てのビル全体が書店であり、「全ての流通本が収容可能な書店」という見出しが付けられているが、神戸・三宮に本店がある関西系の本屋であるなどの記事は見られない。

次に、本書の構成から全体を概観してみよう。全体が7つの部分からなっていることを、目次からみることができる。

最初は、「1. 本の探し方である」である。(1)総合的に本を探す、(2)参考図書を探す、(3)官公庁図書・資料を探す、(4)翻訳図書を探す、(5)全集・叢書を探す、(6)書評された図書を探す、(7)主題から文献を探す、として7項目に分かれ、それぞれを具体的に解説し、事例紹介をしている。

「2. 雑誌記事の探し方」では、具体的な索引ツールごとに、解説と事例紹介をしている。それらは、(1)NDL-OPAC 雑誌記事索引、(2)『雑誌記事索引—人文・社会編』、(3)『月刊雑誌記事索引(JOINT)』、(4)『総合雑誌記事索引』、(5)『全国短期大学紀要論文索引』、(6)『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』、(7)『社会科学論文総覧』、(8)『明治

・大正・昭和前期 雑誌記事索引集成』，(9)『日本雑誌総目次要覧』，(10)『科学技術文献速報』，(11)『政府定期刊行物目次総覧』，(12) "Social Sciences Citation Index"，(13)『論文集内容細目総覧』，(14)『学会年報・研究報告論文総覧』，(15)『人文・社会翻訳記事論文索引』の15項目である。これらの中には、既に廃刊になったものも含まれている。しかし、情報を探す人には、現在発行されているのか、あるいは既に廃刊になってしまったのかなどということは、問題でない。このような新旧にとらわれない取り上げ方は重要なことである。

「3. 新聞記事の探し方」では、最初に「新聞情報調査機関概要」があり、国内の3機関と海外の2機関が紹介されている。新聞は特別な資料で、そのバックナンバーも含めて所蔵している機関は限定されており、新聞の現物がなければ、索引も作れないし、原文を読むこともできない。そこで、このような新聞資料センター的な機関が重要になるのである。次に、具体的な検索ツールを中心にした解説と事例紹介がある。それらは、(1)新聞縮刷版（各紙。発行していない新聞もある）、(2)『朝日新聞記事総覧』，(3)朝日新聞オンラインサービス「聞蔵Ⅱ」，(4)読売新聞オンラインサービス「ヨミダス文書館」，(5)日経テレコン21，(6)『読売ニュース総覧』，(7)『毎日ニュース事典』，(8)『会社・産業ニュース索引』，(9)『明治ニュース事典』，(10)『大正ニュース事典』，(11)『昭和ニュース事典』，(12)新聞集成（新聞から主要な記事を選択し、そのまま転載したもの）、(13)『国際ニュース事典 外国新聞に見る日本』，(14)新聞全集（新聞そのものを集め、復刻したもの）、(15)外国の新聞記事「オンラインサービス」の15項目である。

「4. どのような種類の新聞・雑誌があるか調べ、その所蔵館を知る」では、8つのツールを紹介している。それは、(1)『雑誌新聞総かたろぐ』，(2)『日本雑誌総覧』，(3)"Ulrich's International periodicals Directory"，(4)NACSIS Webcat，(5)『学術雑誌総合目録』，(6)『明治新聞雑誌文庫所蔵目録』，(7)国立国会図書館所蔵目録，(8)『雑誌名変遷総覧』である。

「5. 人物から文献を探す」では、主要な10のツールを紹介している。(1)『現代日本執筆者大事典』，(2)『現代日本執筆者大事典 77/82』，(3)『新現代日本執筆者大事典』，(4)『現代日本執筆者大事典』第4期，(5)『日本人物文献目録』，(6)『人物文献目録』1980～，(7)『人物研究・伝記評伝図書目録』，(8)『研究者・研究課題総覧』，(9)『伝記・評伝全情報』，(10)『年譜年表総索引』である。

「6. 人名情報の探し方」では、『人物レファレンス事典』，『東洋

人物レファレンス事典』、『西洋人物レファレンス事典』、『外国人名レファレンス事典』などを紹介している。

「7. 事実・事項調査のための情報源―書誌以外のレファレンスツール」では、(1)主要参考図書一覧、(2)CD-ROM 版参考図書一覧、(3)インターネットで利用できる文献調査の3部に分けて、具体的に説明している。

巻末には、「文献調査に役立つ主要書誌類 CD-ROM 一覧」と「調査に関する演習問題」、さらに索引がついており、本書を使っての自学自習者に配慮がされている。

さらに2年後には、第3版が出版されることを期待したいが、その際に、ぜひ「索引」の充実をお願いしたい。巻末の索引は書名と事項を中心としたものであるが、事項の方は、固有名詞に近いものが重点的に索引語として採用されているおり充実しているのに、普通名詞の事項索引が不足している。また、索引語の本文中の表示をゴシック体で表すなどの工夫を今回から取り入れていることは高く評価できるが、これをさらに徹底すると、マニュアル的な使用にも、教科書（自学自習を含む）としての利用にも大変便利になると考える。これらの点を考慮した改訂をぜひお願いしたい。

(トダ ミツアキ)

(4) 図書館関係講座のお知らせ

ライブラリーマネジメント・ゼミナール 2006／関西
コミュニティの活力源になるライブラリーをめざして

- 2006年9月24日、10月22日、11月19日、12月17日、2007年1月21日
13:30～17:00（全5回、日曜日開催）

ライブラリーとそれを取り巻くコミュニティは“共存共栄”の関係です。情報を組織化して提供できるライブラリーがコミュニティの活力源になることをめざし、そのためのライブラリーマネジメントを考えます。

- プログラム：

- 第1回「仕事をグレードアップする～劇場としての書店、〇〇としての図書館」（福嶋聡氏：ジュンク堂池袋本店副店長）
- 第2回「コレクションを有用な情報源に～利用を創出する」（尼川洋子氏：人と情報を結ぶWEプロデュース代表）

第3回「ライブラリー事業の新機軸を～企画のポイントと業務フロー」
(尼川洋子氏：人と情報を結ぶWE プロデュース代表)

第4回「“静かな”から“目立つ”ライブラリーに～マーケティング
とパブリック・リレーションズ」(高橋和子氏：日本生命保
険相互会社附属文研図書館)

第5回「チームプロジェクトとしてのマネジメント～変化に対応する
ために」(結城美恵子氏：インフォメーション・プランニン
グ代表)

●ゼミナールファシリテーター：丸本郁子氏

(大阪女学院短期大学名誉教授，図書館
利用教育委員会元委員)

■会場：とよなか男女共同参画推進センター「すてっぷ」

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1-1-1-501

阪急豊中駅下車，駅前「エトレ豊中」5・6階

TEL. 06-6844-9774

<http://www.tcct.zaq.ne.jp/toyonaka-step/guide/access.html>

■対象者：図書館・情報センター，男女共同参画センター等，情報提供
の現場で働く人

■定員：15名(全回参加の方優先)

■主催：人と情報を結ぶWE プロデュース

〒657-0835 兵庫県神戸市灘区灘北通10-1-21-303

■参加費：15,000円(全5回)。第1回の福嶋氏の講演のみ参加の方は
3,000円

■申込：下記の申込書にご記入のうえ，FAX または電子メールでお申
し込みください。

FAX：078-805-5221 人と情報を結ぶWE プロデュース

電子メール：yamak@dorf-na.bb4u.ne.jp 尼川洋子宛

■締切：9月9日(土)

●申込書

ライブラリーマネジメント・ゼミナール2006/関西 参加申込書

申し込み 2006年 月 日

■氏名(ふりがな)：

- 職場名：
- 職名（役職）：
- 経験年数：
- 連絡先（自宅または勤務先の連絡先をご記入ください）
 - 住所：
 - 電話：
 - FAX：
 - E-mail：
- 参加：「全回参加」「第1回の福嶋氏の講演のみ参加」「その他」
のうちのいずれかをご選択ください。
- コメント（今回のゼミナールで学びたいこと、今かかえている課題
などをご記入ください）

※記入いただいた情報は、今回のゼミナールの企画・運営の参考にする
以外に、利用、公表することはありません。
=====

(5) 編集後記

電子メール版になって9号目の「通信」をお届けします。今号では、
「第8回図書館利用教育実践セミナー」と「ライブラリーマネジメント
・ゼミナール2006／関西」のお知らせを掲載しました。関心のある方は
ぜひご参加ください。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。
(春田)

(6) 利用教育委員会委員

(委員長)

毛利 和弘 : 亜細亜大学学術情報課

(委員)

青木 玲子 : 埼玉県男女共同参画推進センター

赤瀬 美穂 : 京都産業大学図書館

有吉 末充 : 京都学園大学人間文化学部メディア文化学科

石川 敬史 : 工学院大学図書館

木下 みゆき : 大阪府立女性総合センター情報ライブラリー

野末 俊比古 : 青山学院大学文学部

春田 和男 : 筑波大学大学院博士課程

和田 佳代子 : 昭和大学歯科病院図書室
久保木いづみ : 日本図書館協会事務局

< C U E > 利用教育委員会通信 第 62 号 (17 卷 2 号) 2006. 8. 16 発行

・ バックナンバー

<http://www.jla.or.jp/cue/>

・ 配信登録・変更・解除・お問い合わせ

cue@jla.or.jp

※本紙は Yahoo! Groups を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本紙の内容と Yahoo! とは関係がありません。

[戻る](#)